

Q8 総合的な学習の時間の指導は、どのように考えればよいのですか。

1 「総合的な学習の時間」の目標は

目標

横断的・総合的な学習や探求的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

「小学校学習指導要領第5章第1」「中学校学習指導要領第4章第1」

総合的な学習の時間は、これまで、その趣旨やねらいなどについて定めてきましたが、今回の改訂では、総合的な学習の時間の特質や目指すところを目標として示し、この時間において育成する児童の資質や能力及び態度が明確にされました。この目標は、これまで示されていたねらいの(1)「自ら課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること」(2)「学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること」を踏まえながら、これまでも大切にしてきた「探求的な学習」を行うことや、「協同的」に取り組む態度を育てることなどを明らかにして構成されています。

この目標は、総合的な学習の時間において国が示す目標です。国が示す目標を踏まえ、より、具体的な目標や内容は、各学校において定めることが明確に示されました。

2 特別支援教育における特色

(1) 指導計画の内容と取り扱いについて

総合的な学習の時間の目標、各学校において定める目標及び内容並びに指導計画の作成と内容の取り扱いについては、各特別支援学校を通じて、小学校または中学校の学習指導要領に準ずることとしています。しかし、指導計画の作成と内容の取り扱いについては、次のような特別支援学校独自の項目が二つ示されており、これらの事項に十分配慮する必要があります。

ア 学習活動が効果的に行われるための配慮事項

特別支援学校に在籍する子どもの障害の種類や程度、発達の段階や特性等は多様であることから、個々の子どもの実態に応じて、補助用具や補助的手段、コンピュータ等の情報機器を適切に活用するなど、学習活動が効果的に行われるように配慮することが大切です。

イ 体験活動に当たっての配慮事項

体験活動としては、例えば、自然に関わる体験活動、ボランティア活動など社会と関わる体験活動、ものづくりや生産、文化や芸術に関わる体験活動、交流及び共同学習などが考えられますが、これらの体験活動を展開するに当たっては、子どもをはじめ教職員や外部の協力者などの安全確保、健康や衛生等の管理に十分配慮することが求められます。

(2) 教育課程について

- ア 視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校においては、小学部3学年以上及び中学部において、また、知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校においては、中学部において、それぞれ適切な授業時数を定めることとされています。
- イ 知的障害特別支援学校では、「総合的な学習の時間」は、小学部では設けなくてもよいことになっています。その理由として「小学部では総合的な教科である生活科が設定されていること、各教科等を合わせた指導が行われていることなどから同様の趣旨の指導を行うことが可能であるため」とされているからです。
- ウ 重複障害者については、障害の状態により、自立活動を主とした指導を行う場合には、この時間を設けなくてもよいことになっています。

※ 特別支援学級においては、特別支援学校の学習指導要領を参考にし、実状にあった教育課程を編成するとされていますが、「総合的な学習の時間」については、特別支援学級が、小中学校に設置された学級であることから、同様に設けることとされています。さらに、特別支援学級においては、学級独自の取組と、通常の学級や学校全体の取組などとの関連を念頭に置き計画を立てていくことが必要です。そのためには、教師間の連携や共通理解が必要です。

3 「総合的な学習の時間」と生活単元学習

知的障害教育では、各教科等を合わせた指導として「生活単元学習」という指導形態で学習活動が展開されています（生活単元学習についてはQ23を参照）。生活単元学習では、生活上に必要な課題を具体的な活動を通して身につけさせていくことをねらいとし、その活動に取り組み、結果として各教科等の内容を習得するものです。一般化したり、抽象化したりすることが困難であるという知的障害の特性を踏まえた実際的で総合的な学習活動と捉えることができます。

「総合的な学習の時間」は、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決するというようなねらいが、子どもの活動そのものの中で達成されるものとされています。それまでに、子どもが各教科等で身につけた知識や技能を相互に関連付け、教科の枠を越えて学び方やものの考え方を学び、主体的、創造的態度を育成することを目標とした学習活動です。

実際に学習を展開していく部分では、かなり重なる部分があるといえますが、それぞれの趣旨やねらい等を踏まえて、教育活動を展開します。